日本教育メディア学会

学　会　通　信　第 60 号

学会ホームページ http://jaems.jp/

2012 年 10 月 10 日発行

事務局

〒176-8534

東京都練馬区豊玉上1-26-1

武蔵大学社会学部

中橋雄研究室内

電話：03-5984-4792

E-mail：office@jaems.jp

目次

会長挨拶 …… 2

第6期　理事会議事録（抄） …… 3

第7期　理事会議事録（抄） …… 4

日本教育メディア学会　定例総会議事録（抄） …… 4

2012 年度　第 19 回日本教育メディア学会年次大会御礼 …… 8

第一回研究会のご案内／プログラム …… 9

ICoME2012 のご報告 …… 12

特集「ソーシャルメディアと子ども」論文の募集について …… 13

企画委員会・編集委員会の合同企画のお知らせ …… 14

学会費納入のお願い／入会者・退会者 …… 15

会長挨拶

日本教育メディア学会　第７期会長　鈴木克明（熊本大学教授）

日本教育メディア学会第 7 期会長をお引き受けするにあたり、学会員の皆様にご挨拶申し上げます。

日本放送教育学会と日本視聴覚教育学会が統合されて、1994 年に日本視聴覚・放送教育学会となり、それから５年間を経て「日本教育メディア学会」となり、本年で第７期を迎えました。しかし、本学会の前身はもっと前に遡ることができます。戦後民主主義を普及するために OHP の第一号機が米国から我が国に輸入され、16 ミリ映写機やテレビ・ラジオ放送の教育利用とともにメディアを用いた教育が議論されたのは戦後に新設された国際基督教大学（ICU）でした。そのような歴史を知らずに私は ICU に入学し、学会事務局員として西本三十二会長（当時）に同行し、島根大学で開催された全国大会にかばん持ちで参加しました。それが本学会との出会いでした。以来、様々な人たちと出会い、様々な研究活動をする機会に恵まれ、本学会は研究者としての私を育ててくれた故郷だと言えます。ですから、その会長の大役をお引き受けして、身が引き締まる思いです。３年間で何ができるか心もとなくはありますが、中橋事務局長に頼りつつ、小平・黒上両副会長を始めとする第７期理事・監事各位に助けられながら、また、会員の皆様のお知恵を借りながら、微力を尽くす覚悟です。どうぞよろしくお願いします。

本学会の強みは何と言ってもその歴史の長さに支えられた研究成果の蓄積にあります。ソーシャルメディアの時代だと喧伝されていますが、これまで新しいメディアが登場するたびに繰り返されてきた過剰な期待と小規模で一過性のインパクトに反して、「今度こそは違う」と言えるだけの影響をもたらすのでしょうか。カナダのメディアリテラシー教育の巨匠ダンカンが亡くなったという訃報を届けてくれたのは Facebook への書き込みでした。少なくとも情報環境はかなり変わりました。あとはそれをどう教育や学習に生かしていくのか、その知恵と工夫が求められています。まず本学会がソーシャルメディアを学会の活性化に役立てることから始めることが必要なのかもしれません。温故知新をキーワードとして、何ができるかを考えて行きたいと思っています。

全米教育工学コミュニケーション学会（AECT）の前身であった NEA の視聴覚教育部会（DAVI）がその機関誌を発刊したのが今から 60 年前の 1953 年でした。その機関誌の名称は「Audio-Visual Communication Review (AVCR)」で、私が大学院生だった頃、かび臭いバックナンバーを閲覧するために ICU 図書館に通ったことを思い出します。AVCR は ETR&D と名称を変えましたが、AECT 会員には創刊号から 60 年分の全論文が無料で提供

されています。印刷物に依存していた時代には考えられないアクセスの容易さであり、情報時代の恩恵です。新しいものが目まぐるしく続々登場する時代だからこそ、長い伝統を有する本学会が、その過去の遺産から学び直すことを意識する必要があるのではないかと思っています。 会員諸氏が、容易に学び直しできるような情報環境を整備していくのも本学会の使命だろうと考えていたところ、第６期編集委員会から過去に発表された論文の電子化が提案され、研究資産へのアクセスが容易になりそうです。会長として、この動きが着実に進むように、見守っていく所存です。また、第７期の理事各位には、委員会活動を通じて学会を活性化していただけるように、会則で定められている編集委員会と研究委員会に国内と国際担当を設け、その他にも、年次大会委員会、企画委員会、広報委員会、井内賞選考委員会を設け、その委員長または副委員長に就任いただきました。会員諸氏におかれましては、本学会がこれまでの伝統を受け継ぎ、そして更に元気になることができますように、ぜひ研究仲間を本学会にお誘いいただくとともに、学会活動への更なる積極的な参画をお願いします。

みんなに会うのが楽しみで、ためになってまた来たくなる、そんな学会にしていきましょう！

2012 年 9 月 4 日

年次大会を終えて仙台から東京へ向かう新幹線車中にて

第6期　理事会議事録（抄）

１．日時　2012 年 8 月 30 日（金）15:00-16:00

２．場所　東北学院大学土樋キャンパス８号館第１会議室

３．出席者　理事 13 名（委任状 9 名）

４．協議事項

下記議案について協議され、承認された。

（１）2011 年度事業報告及び収支決算および監査報告

（２）第 7 期会長・理事の選挙結果

（３）2012 年度事業計画及び収支予算案

（４）学会論文誌の論文データベース公開に伴う著作権処理に関する案

・学会誌「教育メディア研究」をデジタル化し、論文データベース（CiNii）に公開する。

・過去の学会論文誌を論文データベース（CiNii）に公開すべく、著作権に関わる取り扱いに関して Web サイトに公示する。

（５）定時総会の議題

５．報告事項

（１）日本教育メディア学会の編集による教科書『博物館情報メディア論』制作の進捗状況

（２）「日本視聴覚教育協会・井内賞」の審査経過

（３）事務局運営に関する引き継ぎ事項

（４）次年度の年次大会開催校（和歌山大学、2013 年 10 月 12 日・13 日）

（５）次年度の ICoME 開催校（日本福祉大学、2013 年 8 月上旬）

日本教育メディア学会　事務局長（第 7 期）
中橋　雄（武蔵大学）

第7期　理事会議事録（抄）

１．日時　2012 年 8 月 30 日（金）16:30-18:00

２．場所　東北学院大学土樋キャンパス 8 号館第 1 会議室

３．出席者　理事 15 名（委任状 11 名）

４．協議事項

下記議案について協議され、承認された。

（１）第 7 期会長・理事の選挙結果

（２）企画委員会の設置

（３）広報委員会の設置

（４）事業計画・収支予算案

（５）役員・各種委員会の担当

（６）定時総会の議題

日本教育メディア学会　事務局長（第 7 期）
中橋　雄（武蔵大学）

日本教育メディア学会　定例総会議事録（抄）

１．日時　2012 年 8 月 31 日（金）15:30-16:20

２．会場　東北学院大学土樋キャンパス 6 号館

３．内容

議事に先立ち、議長から、有効な委任状が 76 通事務局に届き、出席者が 74 名のため、学会会則第 44 条に従って 2012 年度定例総会が成立していることが報告された。

（１）議案

ア．　第 1 号議案（2011 年度事業報告及び収支決算承認の件）

資料に基づいて、事務局長から 2011 年度事業経過及び結果（機関誌発行、年次大会の開催、学術交流等：研究会、ICoME2011 の開催等）についてそれぞれ説明があり、また、監事から通帳、会計書類等適正に処理、保管されていることが報告され、審議の結果、2011 年度収支決算（案）が異議無く承認された。

イ．　第 2 号議案（2012 年度事業計画及び収支予算承認の件）

資料に基づいて、事務局長から 2012 年度事業計画（機関誌発行、年次大会の開催、学術交流等：研究会、ICoME2012 の開催等）についてそれぞれ説明があり、審議の結果、2012 年度収支予算書（案）が異議無く承認された。

ウ．　第 3 号議案（会長、理事、監事承認の件）

資料に基づいて、第 7 期会長・理事選挙経過の説明があり、審議の結果、以下の通り異議無く承認された。

会長　鈴木　克明

理事　浅井　和行、生田　孝至、稲垣　忠、宇治橋　祐之、岡部　昌樹、小柳　和喜雄、影戸　誠、木原　俊行、久保田　賢一、黒上　晴夫、小平　さち子、後藤　康志、佐々木　輝美、佐藤　幸江、インスン　ジョン、下田　昌嗣、寺嶋　浩介、豊田　充崇、中川　一史、永田　智子、中橋　雄、堀田　博史、堀田　龍也、村上　正行、村野井　均（以上 25 名。ただし、4 名の「会長指名理事」を含む）

監事　小笠原　喜康、南部　昌敏（以上、2 名）

（２）その他

ア．　新会長挨拶及び新役員紹介

新会長から就任の挨拶があった後、資料に基づき、役員について紹介があった。

イ．　表彰「日本視聴覚教育協会・井内賞」審議経過と結果報告

担当委員長より「日本視聴覚教育協会・井内賞」審議経過と結果が報告され、表彰が行われた。

ウ.『教育メディア研究』電子化について

学会論文誌を論文データベースに公開するにあたり、過去の論文もその対象とすることとし、著作権処理に関して学会 Web サイトに公示することが報告された。

エ.『博物館情報・メディア論』進捗状況

日本教育メディア学会編集による教科書『博物館情報・メディア論』制作の進捗状況が報告された。

オ.『教育メディア研究』特集論文・一般論文の募集

『教育メディア研究』19 巻 2 号で、特集論文を募集するという案内があった。

カ.　次年度の年次大会開催校

次年度の年次大会は、和歌山大学にて、2013 年 10 月 12 日・13 日に開催されることが報告された。

キ.　次年度の ICoME 開催校

次年度の ICoME は、日本福祉大学にて、2013 年 8 月上旬に開催されることが報告された。

第1号議案

2011年度 収支決算（自2011.4.1～2012.3.31）（抄）

１．収入の部

収　入　項　目	収入額	備　　考
繰越金	3,026,411	2010年度から繰り入れ
正会員会費	1,519,000	219名分
学生会員会費	112,000	28名分
団体会員会費	307,000	6団体
購読会員会費	28,000	4会員
過年度正会員会費	412,000	のべ19名分
過年度学生会員会費	8,000	のべ１名分
過年度団体会員会費	0	
過年度購読会員会費	0	
新入会金	66,000	13名分
雑収入	100,000	雑誌販売 2,000円，別刷り印刷 98,000円
利子	573	
研究会決算による戻入	87,177	
計	5,666,161	

２．支出の部

支　出　項　目	当初予算	決算額	増減額	備　　考
通信運搬	250,000	340,847	▲90,847	学会誌・別刷・学会通信
消耗品	50,000	13,184	36,816	消耗品費
設備・什器	0	0	0	
印刷製本	2,200,000	938,760	1,261,240	学会誌17(1)，17(2)，別刷・学会通信の印刷・製本 ※18巻（合併号）が平成24年度発行に繰越
会議費	100,000	10,967	89,033	理事会・編集委員会
国際会議開催補助費	350,000	0	350,000	国際会議（ICOME2013）開催補助費（積立）を平成24年4月に計上
借損料	50,000	0	50,000	関大東京センター，ICUダイアログハウスを無料で使用できたため
旅費	100,000	104,560	▲4,560	事務局旅費，会計監査旅費
諸謝金	400,000	165,000	235,000	英文校閲謝金・事務局補助

				謝金
年次大会赤字補填	0	193,701	▲193,701	2010年度　熊本大会の赤字補填
年次大会運営費	400,000	409,723	▲9,723	2011年度年次大会運営費（国際基督教大学）
研究会運営費	200,000	112,835	87,165	2011研究会委託費　3回分
企画委員会委託費	100,000	0	100,000	企画委員会委託費
雑費	20,000	36,760	▲16,760	振込手数料（16,500円）・オンライン口座管理費（12,600円）・サーバー代（7,560円）
予備費	2,053,411	0	2,053,411	
繰越金	0	3,339,824	▲3,339,824	2012年度会計に繰り越し
計	6,273,411	5,666,161	607,250	

第2号議案

2012年度予算（自2012.4.1～2013.3.31）案

１．収入の部

収　入　項　目	収入額	備　　考
繰越金	3,339,824	2011年度から繰り入れ
正会員会費	1,715,000	7,000円×245名　（納入率70%）
学生会員会費	112,000	4,000円×28名分　（納入率70%）
団体会員会費	350,000	7団体
購読会員会費	84,000	12会員
過年度正会員会費	308,000	44名分　（未納者の40%）
過年度学生会員会費	24,000	6名分　（未納者の40%）
過年度団体会員会費	0	
過年度購読会員会費	0	
新入会金	135,000	15名分
雑収入	100,000	雑誌販売および別刷り印刷
計	6,167,824	

２．支出の部

支　出　項　目	支出額	備　　考
通信運搬	300,000	学会誌・別刷・学会通信・理事選挙郵送費
消耗品	50,000	消耗品費
設備・什器	0	
印刷製本	1,200,000	学会誌18(1/2合併号)，19(1)，19(2)，別刷・学会通信
会議費	100,000	理事会・編集委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	700,000	ICOME2013開催補助費（2011年度分の積立て金35万円を含む）
借損料	50,000	理事会・編集委員会会議場借料
旅費	100,000	選挙管理委員会・理事会・編集委員会・事務局旅費
諸謝金	500,000	英文校閲謝金・事務局補助謝金
年次大会委託費	400,000	年次大会開催委託費
研究会委託費	200,000	研究会委託費　２回分
企画委員会委託費	200,000	企画委員会委託費

雑費	20,000	振込手数料・オンライン口座管理費　1,000円/月
予備費	2,347,824	
計	6,167,824	

2012 年度　第 19 回日本教育メディア学会年次大会御礼

大会準備委員長　稲垣　忠（東北学院大学）

第 19 回日本教育メディア学会年次大会を 2012 年 8 月 31・9 月 1 日に東北学院大学・土樋キャンパスにて開催いたしました。

課題研究 12 件、一般研究 53 件の計 65 件の研究発表がありました。課題研究では、「教育における情報端末の活用」「教育におけるゲーム・ワークショップ」「メディア接触の現状と課題」の３つのテーマを設定しました。機器としてのメディア、コンテンツとしてのメディア、メディア接触とリテラシーの問題まで、教育メディア研究における最新のテーマについて、研究発表と質疑がなされました。一般研究では、学校教育、高等教育、生涯学習、教員養成と幅広い教育実践の領域を対象に、映像、ネットワーク、ＩＣＴ機器といったメディアを活用した教育実践、学習を支援するシステムや学習環境に関する検討、メディアの特性理解に関する研究まで、さまざまなご発表とともに、活発な質疑をいただきました。

さらに 1 日目には、「特別対話」として武蔵大学の中橋雄教授によるコーディネートのもと、関西大学の久保田賢一教授と熊本大学大学院の鈴木克明教授による対談「これからの教育メディアと学びのデザイン」を設定しました。「写真」というメディアを切り口にしながら、これまでの視聴覚・放送教育研究の歴史から振り返り、教育メディア研究の今後の方向性についてご提言いただきました。同日夜に開催した懇親会には 70 名程度の参加がありました。研究者、現職教員、学生、企業の方々の間での交流とともに、東北の食文化をお楽しみいただきました。

2 日目のシンポジウムは「近未来の教育メディア環境と授業実践」と題し、放送大学の中川一史教授および筆者がコーディネートを担当しました。登壇者には、特に小～高校までの学校教育における教育メディアを活用した先進事例をもとに討議しました。小学校教諭、中学校の実証研究に携わる研究者、高校教諭から、それぞれの学校種における現状のご報告をいただいた上で、企業の立場からもデジタル教科書等のコンテンツ開発についてご発表いただきました。今後 5 年、10 年先の学校現場における教育メディア環境を展望する機会となりました。

本年は開催地の都合により、1 日半という限られたスケジュールの中での開催でした。また、金曜・土曜の開催というやや変則的な曜日設定にもかかわらず、多数の参加者をお迎

えすることができました。特に、宮城県内をはじめ小～高校の現職の先生方にも多数ご参加いただきました。また、本年は企業協賛として、11 社の企業の皆様に広告や展示等でご支援いただきました。第 19 回日本教育メディア学会年次大会にご参加いただいた全ての皆様のおかげで盛会のうちに終えることができました。大会準備委員を代表し、厚く御礼申し上げます。

日本教育メディア学会　第一回研究会のご案内

１．　開催日時： 2012 年 10 月 13 日（土）13 時から 17 時（12 時半より受付）

２．　開催場所： 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田　日本福祉大学 12　号館

３．　研究テーマ：国際連携・国内連携　新しい学びを求めて

学校間での連携、あるいは、地域・学外の各種機関と連携した体験型の学習、プロジェクト型の学習が各種行われてきました。学習者に本物の活動場面を提供し、実践的な力の獲得、学習の動機づけや主体性・能動的な学びを引き出すための学習としても期待されています。そこで今回は、国際連携・国内連携した学習活動に関する実践報告と一般発表、効果的な活動設計、評価方法等について検討します。

４．　登壇予定

9 月 20 日現在、**国際関連テーマでは、タイでの研修、フィリピンでのプロジェクト、韓国との共同研究、中国との連携、ラオスでの英語教員の研修、インドでのフィールドワーク**などの発表が予定されています。そのほか「国際協働プロジェクト」「協働を支える ICT」、一般発表など興味深い情報交換がなされます。（プログラム近日掲載）

参加予定の先生方は　中部大学　東京国際大学　名古屋市立名東高等学校（株）内田洋行　大阪市立東高等学校　愛知淑徳大学　関西大学　総合研究大学院大学　日本福祉大学（株）エヌ・エフ・ユー　愛知教育大学　放送大学　中京大学　京都外国語大学　関西大学　徳島文理大学　十文字学園女子大学　関西大学初等部　からおいでになります。　シンポジュウムでは、中京大学　宮田先生、京都外国語大学　岸先生　日本福祉大学　影戸が登壇し、ICT を活かした国際交流、新しい学びのデザインについて皆さんと話しあいます。

これを機会に「協働、情報交換」の輪をぜひ広げていってください。

５．　参加費： 資料代 1,000 円

６．　参加申し込み締め切り日： 10 月 07 日

また懇親会は、知多半島では有名な、温泉付き旅館　まるは　です。

参加費用は、懇親会のみ約 5,000 円、宿泊込で約 10,000 円の予定です。
ご参加ください。1　参加する、2 懇親会も参加、3　宿泊も依頼　でお知らせください。
申込アドレス
　satoshin@n-fukushi.ac.jp　日本福祉大学　佐藤慎一　影戸誠

研究会プログラム

A1　研究発表（1513 教室）	13:00 － 14:40

A1-1　異文化理解を目的とする海外研修旅行とは？　～学生の海外経験のあり方をめぐって～
　大西誠（愛知淑徳大学）
A1-2　海外ボランティアにおける学生の他者との関わりに関する考察
　田原俊哉・山本良太（関西大学大学院）・久保田賢一（関西大学）
A1-3　E ラーニングと協調学習による自己調整学習スキルの獲得支援
　山田雅之（総合研究大学院大学）
A1-4　大学外における教育実践と学習の分類
　山本良太（関西大学大学院）・久保田賢一（関西大学）
A1-5　大学教育における体験学習の意義と課題　―北タイフィールドスタディを通じて―
　杉本篤史（東京国際大学）

B1　研究発表（1512 教室）	13:00 － 14:40

B1-1　日韓教育大の交流における情報メディアの活用 9
　江島徹郎・真島聖子・梅田恭子・上田崇仁・土屋武志・山根真理（愛知教育大学）・姜洪在（晋州教育大学校）
B1-2　JICA 開発教育指導者研修に参加して
　久賀史恵（名古屋市立名東高等学校）
B1-3　SNS への投稿データの可視化による振り返り活動の支援
　佐藤慎一・影戸誠（日本福祉大学）
B1-4　ノートシェアリングが e ラーニングにおける学習に及ぼす効果
　高村秀史・佐藤慎一・矢崎裕美子（日本福祉大学）
B1-5　平成 23 年度版小学校国語科教科書における映像メディアの理解と表現の指導に関する分析
　中川一史（放送大学）・石川等（甲府市立里垣小学校）・佐藤幸江（横浜市立高田小学校）・中橋雄（武蔵大学）・森下耕治（光村図書出版）

A2　研究発表（1513 教室）　14:50 － 16:10

A2-1　「経験の円錐」再考
吉田雅彦（エヌ・エフ・ユー）

A2-2　中国における思考力育成の授業デザインの教員研修の実施
三宅貴久子（関西大学大学院）・岸磨貴子（京都外国語大学）・久保田賢一（関西大学）・李克東（華南師範大学）

A2-3　国際交流プロジェクトにおけるコーディネータとしての教員の役割についての考察
池田明（大阪市立東高等学校）

A2-4　カンボジア・パニャサストトラ大学と協働した海外体験型学習の実践研究
平川成一（関西大学大学院）

B2　研究発表（1512 教室）　14:50 － 16:10

B2-1　海外との交流学習を実施するためのベースライン調査
―初等中等教育におけるインドとの事例を通して―
今野貴之（目白大学）

B2-2　２つの国際交流プロジェクトを支えて
市村信昭（内田洋行）

B2-3　ソーシャルリーディングを支援する Facebook アプリの開発
～高校生小論文作成時の読みフェーズに着目して～
佐藤朝美・高橋薫・藤本徹（東京大学）・高橋淳・谷内 正裕（ベネッセコーポレーション）・山内祐平（東京大学）

B2-4　Authentic Learning and Collaboration with Web 2.0 Technologies
Bert Y. Kimura (University of Hawaii), Mary E. O. Kimura (NPO Forum for I-Learning Creation), Curtis P. Ho (University of Hawaii), Kenichi Kubota (Kansai University)

シンポジウム（1513 教室）　16:25 － 17:30

S-1　World Museum Project　視野と志を世界に広げる学びの場
宮田義郎（中京大学）

S-2　ICT を媒介した越境学習の実践　－国際連携のプロジェクトを事例として－
岸磨貴子（京都外国語大学）

S-3　多様な学びを国際フィールドに求めて　Linkage between Two Authentic Settings
影戸誠・佐藤慎一・Gary Kirkpatrick（日本福祉大学）

ICoME2012 のご報告

International Conference of Media in Education（ICome2012）
大会テーマ “Creative Learning Enhanced by New Media

今年度は第 10 回の節目にあたり、北京師範大学で開催された。8 月 20 日から 22 日まで 3 日間の日程で日本からは 12 大学、約 60 名の参加があった。日本、中国、韓国三カ国の連携のもと推進された。日本は「日本教育メディア学会」韓国からは KAEIM（Korean Association for Educational Information and Media)がその推進母体となった。

開催期間・プログラム

2012 年 8 月 20 日（月曜日）　21 日（火曜日）　22 日　（水曜日）

20 日　開会式　基調講演　発表　ラウンドテーブル

21 日　基調講演　発表　ラウンドテーブル

22 日　北京市内、実験校（小学校、中学校）訪問

特徴ある発表形式

発表件数は図のごとく 120 本に上り、とりわけ大学院生、学部生の発表の場であるラウンドセッションは夜 8:30 過ぎまで行われた。学生たちにとっては国際的に著名な研究者から指導を受けるいい機会となり、英語でのコミュニケーションの重要性が確認された。

	パラレルセッション	ラウンドセッション	合計
Korea	27	22	49
JP	21	22	43
China	10	18	28
	58	57	120

交流・討議

北京師範大学構内で行われた今回の大会は、いわば中国式円卓での交流の場も 2 回もたれ、日本・韓国・中国の研究者、大学院生、学生にとっては情報交換の場となった。フューチャースクールの動向、国際連携の在り方など、今後の共同研究について話し合う絶好の機会となった。（関連 URL　http://icome.bnu.edu.cn/）

特集「ソーシャルメディアと子ども」論文の募集について

日本教育メディア学会　編集委員長　久保田賢一

インターネットの利用、携帯電話の普及、最近では Yahoo 知恵袋、Twitter、Facebook などソーシャルメディアと言われているものが普及し、子どもたちの周りのメディア環境が大きく変わってきています。この動きに関わって、これまでも様々な指摘がなされてきました。

例えば、その影の面の指摘や情報ネットワークの世界と効果的に付き合っていくことと関わって、情報モラルに関する取り組み、子どもの生活環境・メディア環境の変化と遊び・人間関係の変化の問題に対する指摘とその取組、MMORPG（多人数同時参加型オンライン RPG）などとも関わるゲームに対する取組、などが進められてきました。

一方、その活用の必要性や可能性に関わっては、The Partnership for 21st Century Skills、ATC21S（Assessing and Teaching 21st Century Skills）、などにも見られるように、知識基盤社会を生きていく力、ICT、ソーシャルメディアの効果的な利用も視野に入れた新たな世代の教育に求められる力の育成とその評価方法の検討を推進しようとする試みが行われてきています。日本でも教育の情報化ビジョンが新たに示され、フューチャー・スクール・プロジェクト、学びのイノベーションなどの取組が行われてきています。

このように、知識基盤社会の到来に対して、その光と影に関わって、様々な調査や取組が検討されてきている昨今，本学会の論文誌においても，「ソーシャルメディアと子ども」をテーマとする論文を募集することになりました。

テーマ例

（1）子どもたちの周りのメディア環境の変化と学び
（2）ソーシャルメディアの教育効果・学習効果
（3）ソーシャルメディアと子どもの健康
（4）学校内・学校外でのソーシャルメディアの利用
（5）ソーシャルメディアと教員養成・現職教育

提出期限は、2012 年 11 月 30 日です。論文の投稿の詳細については、本学会ホームページをご覧ください。投稿のほど，お願いいたします。

企画委員会・編集委員会の合同企画のお知らせ

「学習科学と教育メディア研究の接点を探る」ワークショップ

この度、日本教育メディア学会編集委員会と企画委員会が合同で「学習科学と教育メディア研究の接点を探る」ワークショップを企画しました。教育メディア研究の近接領域として学習科学とのコラボレーションを考えました。来年度の特集論文のテーマを「学習科学と教育メディア研究との接点」とし、このワークショップでの成果を学会誌の特集論文につなげていきます。具体的には、ワークショップに静岡大学の大島純先生らをお招きして、学習科学に関する基礎的な事項について学ぶ機会を設けます。同時に、学習科学のアプローチを教育メディア研究に取り入れた研究を会員から募り、ワークショップではそれらの研究発表について議論し、特集論文として執筆していってもらうことを考えています。

来年度の特集論文「学習科学と教育メディア研究の接点」に投稿を希望する会員は、このワークショップに参加し、研究発表をしていく方向で論文の執筆を検討していただきたく思います。

このワークショップは、教育メディア研究における新しい研究アプローチを模索するためのひとつとして考えておりますので、是非、多くの方に参加していただきたく思います。また、本ワークショップは、本学会の非会員の方にも参加いただけますので、ふるってご参加ください（※ただし、論文の発表、投稿については、会員に限る）

ワークショップは、1月26日（土）で行います。場所は、東京近郊を予定していますが、場所について決まり次第ご連絡します。

ワークショップの流れは次の通りです。

11月15日　ワークショップの発表者の募集
12月15日　発表者の原稿ドラフト（４枚）の提出
01月15日　原稿提出（4枚程度）
01月26日　セミナーの実施
02月26日　特集論文のための論文提出
　　査読の作業に入る。

◆ 学会費納入のお願い ◆

＜納入のお願い＞

2012 年度（2012 年 4 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日）の年会費 7,000 円（学生会員 4,000 円 ※博士課程後期課程に在籍の方は，2011 年度より学生会員に変更になりました。）が未納の方は，下記口座にお振り込みいただくか，郵便局備え付けの「郵便振替用紙」を用いて，納入いただくようお願いいたします.

なお，前年度までの会費が未納の方は，振込者名の後に年度を付加してお振り込みいただくか，郵便振替用紙に年度を明記の上，合わせて納入をお願いします.

＜送金先＞

ゆうちょ銀行 口座番号：14160-8658501 口座名：日本教育メディア学会 （ﾆﾎﾝｷｮｳｲｸﾒﾃﾞｨｱｶﾞｯｶｲ）	（銀行からの振込の場合） 銀行名：ゆうちょ銀行 店名：四一八店（ﾖﾝｲﾁﾊﾁﾃﾝ） 店番：418 預金種目：普通 口座番号：0865850

※他行からゆうちょ銀行への振り込み・・・店番 418・口座番号 0865850

※現金でゆうちょ口座へ振り込み・・・電信振込み請求書・電信振替請求書をご利用ください.（手数料 525 円が別途必要となります）

※郵便貯金口座をお持ちの方は，ATM からの振り込みが可能です（手数料無料）.

その他，ご不明な点がございましたら，本学会の Web ページの「入金口座について」をご参照ください（http://jaems.jp/contents/admission/account.htm）.

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員（1 名）・・・菅原 弘一

会員総数　360 名・17 団体
名誉会員：3 名
正会員：327 名
学生会員：30 名
団体会員：6 団体
購読会員：11 団体
（平成 24 年 10 月 05 日現在）

日本教育メディア学会　事務局

〒176-8534　東京都練馬区豊玉上 1-26-1　武蔵大学社会学部　中橋雄研究室内

電話　03-5984-4792

学会ホームページ URL　http://jaems.jp/

E-mail　office@jaems.jp

（平成 24 年 10 月 5 日現在）